

スポーツ指導者の学びと省察の必要性に関する研究

経済・マネジメント学群

1220407 池田頼信

指導教員 前田和範

研究背景

日本のスポーツ社会では、スポーツ指導者による体罰や統制的な指導が見受けられる。指導の質向上のためには、協会等の総括組織の方針の明確化と、指導者が自らの指導を省みる機会（省察）を適切に形成することが必要である。本研究では、卓球競技に着目し、日本卓球協会や各県の卓球協会は指導者育成のためにどのような活動を行なっているか（研究1）、指導者が省察をどのように行っているか（研究2）について研究を進めていくことにした。

研究目的

本研究の目的は、日本における卓球協会の指導者育成に関する取り組みの現状を明らかにすると同時に、卓球指導者の省察形成のプロセスを明らかにすることであった。それにより、日本卓球界の指導者育成の課題を発見し、指導の在り方を検討する。

調査・分析方法

書籍やウェブ資料などからの内容分析、卓球指導者へのインタビュー調査を行った。調査対象者は、小学生・中学生を指導している卓球指導者5名であった。

分析結果

日本卓球協会は、指導者養成委員会を立ち上げ公認指導者資格を設けるほか、指導者資格の取得や更新に関する講習会や、指導者資格を所有している指導者を対象とした講習会等を行っている。今回インタビューを行なった5名の指導者のうち、上記のような講習会を常に活用している指導者は1名であった。また、省察に関するインタビューの調査からは、指導者の指導歴と省察の頻度について関係性はあまり見られなかったが、競技レベルによって省察能力に差があることが明らかになった。

考察・結論

講習会を常に活用していた指導者は、省察の頻度、競技力ともに高いことから、指導者が正しい省察を行うためには、協会等が示す目指すべき指導方針を学ぶ必要があると考えられる。また、指導者が省察能力を高めるためには、講習会を受ける外、他の指導者の意見を取り入れることが必要だと考えられる。時代に即して選手が卓球を楽しみ伸び伸びとプレーできる環境を作るためには、指導者が学ぶことを怠らず、正しい指導は何かを指導に携わる全ての者が追求し続けることが重要である。